

2014年6月19日

第5回国際野生動物管理学会（IWMC2015）シンポジウム  
「知床国立公園における野生動物の保全と管理 2015」企画（案）ver. 2  
Wildlife conservation and management in Shiretoko National Park, 2015

知床国立公園野生動物の保全と管理シンポジウム実行委員会

**【背景】**

知床は、1964年に国立公園に指定されました。ヒグマやシヤチなどの大型哺乳類や絶滅危惧種であるシマフクロウなどの野生動物が豊富に生息していること、流氷が到来する海域と原始的な森林が残る陸域が、相互に関連しあい一体となって生態系を形づくっていること、火山活動や浸食によって雄大な自然景観がみられることなどが特徴です。この特徴的な生態系を有し、生物多様性保全上重要な生物が生育・生息する地域であることが評価され、2005年には世界自然遺産に登録されました。

ロシア連邦東部、沿海地方のシホテアリン自然保護区は、知床に最も近い世界自然遺産地域で2001年に登録されています。動物相は知床との共通点が多く、さらには国内では絶滅してしまったオオカミやカワウソが生息しています。シホテアリンと知床を比較することで、国立公園管理や絶滅危惧種の保全に向けた取り組みが一層進むことが期待され、知床博物館や（公財）知床財団などを中心に交流事業が始まっています。

一方、北アメリカのイエローストーン国立公園は、世界初の国立公園として1872年に制定され、1978年に世界自然遺産となりました。活火山と地熱活動、原始的な自然植生、豊富な野生動物の存在など、知床国立公園と多くの共通点を持っています。特に、ヒグマと同種であるハイログマと人間との軋轢、エゾシカに近いエルクをはじめとするシカ科動物の増加とその生態系に及ぼす影響などが公園管理上の大きな問題となっています。また、両国立公園ともにレクリエーションの場として文化的に高い価値を持ち、年間200万人以上の利用者を抱え、「保全と利用」という共通の課題を持っています。

2005年7月に札幌市で開かれた第9回国際哺乳類学会（IX International Mammalogical Congress）において、野生動物の管理に関わる研究者や行政担当者が一同に会し、シンポジウム「知床とイエローストーン：代表的な国立公園における哺乳類管理の比較」を開催しました。このシンポジウムでは、ヒグマとグリズリー、エゾシカとエルク、アカギツネとユヨーテ、オオカミ再導入など、野生動物の保護管理について比較を行い、さらには国立公園の歴史や社会学的な諸問題について幅広い議論を行いました。シンポジウムとその後に行われた知床へのエクスカージョンの成果は「世界自然遺産 知床とイエローストーン 野生をめぐる二つの国立公園の物語（デール・R・マッカーロー、梶光一、山中正実編著）」にまとめられています。

## 【企画主旨】

知床が世界自然遺産地域に指定されてから10周年の節目にあたる2015年7月に、日本哺乳類学会（The Mammal Society of Japan）と米国野生動物学会（The Wildlife Society）の共催により、第5回国際野生動物管理学会が、札幌市で開催されることになりました。そこで、第9回国際哺乳類学会が開催された2005年からの10年間の大型野生動物の保全管理のレビューを行うこと、特に、知床国立公園・イエローストーン国立公園及びシホテアリン自然保護区における野生動物管理の比較を行うことによって、今後の課題の明確化を図ることを目的として、本シンポジウムを提案します。

## 【内 容】

### （1）シンポジウム

1. 趣旨説明 … 宇野 裕之【北海道立総合研究機構  
環境科学研究センター】
2. 知床世界自然遺産地域の概要 … 中島 慶次【環境省釧路自然環境事務所】
3. 知床地域のエゾシカの保全管理 … 石名坂 豪【(公財)知床財団】
4. イエローストーン地域の大型有蹄類の保全管理  
… キース・オーネ【アメリカ野生生物保全  
協会】
5. 知床国立公園のヒグマの保全管理 … 山中正実【斜里町立知床博物館】
6. イエローストーン国立公園のクマ類の保全管理  
… チャールズ・シュワルツ【元アメリカ  
合衆国連邦地理調査所】
7. シホテアリン自然保護区の大型野生動物の保全管理  
… ドミトリー・ゴルシュコフ【シホテアリン  
国立自然保護区】
8. 総合討論  
コメンテーター … デール・マッカロー【カリフォルニア大学  
名誉教授】（依頼中）

### （2）エクスカーション

シンポジウム終了後、専門家及び関係者による知床国立公園のフィールド視察及び現地での議論を行う（3泊4日）

### （3）タウンミーティング

関係機関と連携し、専門家による地域住民に対する講演会等を実施し、「野生動物の保全と管理」に関する普及啓発を行う。

**【開催期間】**

**1. シンポジウム**

第5回国際野生動物管理学術会議開催期間

2015年7月26日（日）～30日（木）の1日間

**2. エクスカーション**

2015年7月31日（金）～8月3日（月）の4日間

**【招聘予定者】**

**1. キース・オーネ (Keith Aune)**

モンタナ州立大学大学院修士課程修了。約30年間、the Montana Department of Fish, Wildlife and Parksにおいて、バイソンやハイイログマなど大型動物の生態や野生動物の感染症研究に携わる。現在、Wildlife Conservation Society に所属。

**2. チャールズ・シュワルツ (Charles Schwartz)**

コロラド州立大学大学院博士課程修了。30年以上にわたり米国連邦地理調査所 (USGS) においてアメリカクロクマ、ハイイログマ、ヘラジカなどの個体群動態や保護管理に関する研究に携わる。

**3. ドミトリー・ゴルシュコフ**

ロシアで個体数が減少したユーラシアビーバーの生態と保全をテーマとして、国立カザン大学で博士号を取得した。2013年8月から国立シホテアリン自然保護区の所長として保護区の管理業務にあたっている。

**【実行委員会メンバー】**

宇野裕之	(北海道立総合研究機構・環境科学研究センター)
間野 勉	(北海道立総合研究機構環境・地質研究本部)
山中正実	(斜里町立知床博物館)
村上隆広	(斜里町立知床博物館)
増田 泰	(公財) 知床財団
石名坂 豪	(公財) 知床財団
梶 光一	(東京農工大学)
吉田剛司	(酪農学園大学)
岡田秀明	(斜里町)
田澤道広	(羅臼町)
中島慶次	(環境省釧路自然環境事務所)
谷川真弓子	(フリーランス)